

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2396 号

Salivary Chromogranin A as a Psychosomatic Stress Marker is suppressed in Laparoscopic Surgery compared with Open Surgery for Colon Cancer

(精神身体的ストレスマーカーであるクロモグラニン A は、大腸癌手術に対する腹腔鏡下手術で、開腹手術と比較して抑制される)

石山 隼 (いしやま しゅん)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、大腸癌患者の周術期ストレスマーカーについての論文である。精神身体的ストレスマーカーとされるクロモグラニン A と、酸化ストレスマーカーである d-ROMs test 値に注目し、周術期における値の変化を開腹手術群、腹腔鏡下手術群で比較検討している。

手術侵襲により、唾液中クロモグラニン A は上昇し、第 0 病日にピークを示した後、徐々に回復した。d-ROMs test 値については、第 0、1 病日で値が低下し、第 3、7 病日では術前値より高値を示した。唾液中クロモグラニン A では有意差をもって腹腔鏡下手術群が低値を示したが、d-ROMs test 値は有意差を認めなかった。

今回の検討で、術後早期の経口摂取、在院日数の短縮、インターロイキン 6、CRP など炎症反応の軽減など、これまでに報告されている項目に加え、唾液中クロモグラニン A の測定で腹腔鏡下手術の優位性が示唆された。腹腔鏡下手術の利点はこれまでに種々報告されているが、周術期の唾液中クロモグラニン A を検討した報告はこれまでなく、臨床的に意義のある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。